様式3

学 校 番 号 24

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立八幡南高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）			評　価（総　合）
学校運営方針	「鍛え、ほめ、可能性を伸ばす」ことで、全人的な人間教育と生徒一人一人の自己実現をめざす。【志高くチャレンジ！　希望を貫け！】		B
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の成果は現れているが、更なる高みを目指して地域の生徒・保護者から信頼される学校づくりが必要であると考える。 今年度も引き続き、生徒が高い志を持ち失敗を恐れずチャレンジし希望を貫くことができるよう、教職員各々の力を結集して教育活動を組織的に推進する。 また、コロナ禍で実施できなかった取組を整理して実施し、地域に開かれた学校づくりを目指す。	○授業改善をより一層進め、教育活動の質の向上を図り、生徒が高い志を持って意欲的に学べるよう努める。	・一人一台端末を効果的に活用した学習活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。 ・「授業で勝負」の理念のもと確かな学力の定着を目指し、生徒が授業で力が付いたと実感できるよう授業改善を進める。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別学習状況の評価のさらなる充実を図る。	
	○生徒の多様な進路に対応したカリキュラムにより、生徒の自己実現に向け、第一希望進路実現を目指す。	・個に応じた指導を行うことで、生徒の進路意識の高揚を図り、生徒一人一人の自己実現を目指す。 ・地域社会や同窓会等と連携したキャリア教育を推進し、志高くチャレンジし、目標の実現に向けて最後まで諦めずに努力する生徒を育成する。	
	○社会の変化に対応し、生徒自らが多様な価値観の人々と協働し、社会で活躍できる人材を育てる。	・成年年齢引き下げに対応した教育の充実を図る。 ・全ての教育活動を通して他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく実践力を備えた人材を育成する。	
	○健やかにして豊かな情操を身に付けた人間を育成する。	・人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を行う。 ・インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、教育活動全体において特別支援教育を推進する。	
	○真のリーダーを育成し、学校活性化を図る。	・生徒主体の学校行事の成功に向けて努力する、リーダーシップのある生徒を育成する。 ・特別活動や部活動等を充実させ、たくましい人間力やコミュニケーション力の育成を図る。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務課	授業力の向上を図り、主体的に学ぶ意識の向上を図る。	ICT課と連携し、機器を効果的に活用した授業の推進を図る。	B	B	B	・ICT機器については近年急激な変化がされており、使用方法の周知などに取り組んでいるが、ペースに追いつけていない。今後も対応マニュアルの作成や更新を行い、スムーズに業務が進められるよう準備を行う。 ・教務課の業務分担については毎年見直しをしているが、年度内に新しいものが導入されるなど、業務が増え続けている。速やかに新しいシステムの対応ができるような体制づくりを行いたい。 ・次年度3学年全て新教育課程になることで、各教科と連携して、3年間を通した教科指導の計画ができるように、教科会議を充実させていきたい。 ・評価についてはまだ検討を重ねて、八幡南の評価方法を確立できるように取り組みたい。
		授業アンケートのさらなる改善を行うとともに、「授業で力がついた」の項目が学校で3．5以上(4段階評価)をめざす。	B			
		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図る。	A			
	教務部の組織化を進め、効率的な業務運営を行う。	業務分担を明確にし、組織的な業務の整理を行う。	A	A		
		統合型支援システムの運用方法を整理し、職員が活用しやすいようなシステムの構築を行う。	B			
		共有フォルダ及び校内メールを適切に活用し、円滑な業務運営を行うとともに、職員配布物についてもプリント配布の合理化を進める。	A			
	カリキュラム・マネジメントを通して、教育活動の質の向上を図る。	研修部との連携を強化し、会議及びメール機能を通じて意識の統一を図る。	B	B		
		教科主任と連携をとり、3年間を見通した授業の計画を構築する。	B			
		思考力・判断力・表現力を育むための授業の在り方や評価等について共通理解を図り、全職員で組織的に取り組めるよう指導方法の検討を行う。	B			
ICT推進課	情報機器の管理や業務のデジタル化を通して、先生方が仕事をしやすい環境を整える。	会議室やICT機器の利用について、学校ポータルでの予約システムの構築を行う。	A	B	B	・施設利用の予約システムに関しては、十分浸透しており、大きなトラブルもなかった。ICT機器の予約システムに関してはまだ周知が足りない部分もあるので、次年度の課題としたい。 ・すべての情報機器に関して学期一度の運用状況把握はできていないので、引き続き環境整備に努めたい。 ・Forms等によるデータ集約やアンケート機能に関しては活用が進んだが、共同編集等に関しては改善の余地がある。
		学期に1回は情報機器の運用状況や所在を把握し、円滑に利用できる環境を整える。	B			
		formsでのデータ集約やgoogleアプリによる共同編集など、ICT活用の幅を広げる。	B			
		校務支援システムやteams等の既存のシステムの簡略化・マニュアル化を進める。	A			
庶務課	学校行事が円滑に実施できるよう、早期に綿密な計画を立てる。	式典・行事の流れが把握しやすいよう時系列的に実施要項を作成する。	B	B	B	・PTA総会について、本年度から資料の印刷を業者に依頼する形であったが、業者の手配や資料作成における会長との連携が不十分であり資料の完成と業者への依頼が直前となってしまい大変であった。次年度は資料の作成に早めに取り掛かり、業者への依頼を余裕をもって行えるようにしたい。 ・体育大会や文化祭等行事における来賓への案内状・お礼状・保護者会の案内やPTA理事会の案内等について、次年度は余裕をもって確実に取り掛かるために、どの時期にどの案内が必要かなど確認できる一覧を今年度中に作成しておく。 ・各行事の反省を次年度の計画に反映させる。 ・奨学金の提示については担当の先生が確実に行ってくださった。次年度も引き続きお願いしたい。
		式典・行事ごとに複数の担当者を割り当てて、チームでその企画・運営にあたる。	B			
		各行事の実施要項や会議資料等早めに準備し余裕をもって提示する。	B			
	PTA活動・互助会活動の円滑な運営を行う。	PTA活動の引継ぎ等を確実に行い、活動を促進する。	B	B		
		PTA各種委員会との連携を深め、委員会活動の活性化を図る。	B			
		互助会活動への教職員の積極的な参加を促す。	A			
	奨学金希望者への正確かつ分かりやすい情報の提供を図る。	奨学金の募集時期や種類を分かりやすく提示し、修学及び進学を経済面から支援する。	B	B		

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	電子黒板等を活用した授業は効率的で、生徒も楽しそうに学力を伸長させているようだ。今後も新しいシステムに対応しながら授業レベルの向上を図って欲しい。
A	新型コロナウイルス感染症を契機に企業でもDXを推進している。負担もあるが学校においてもDXを進めて欲しい。
B	PDCAサイクルの確立を図りながら、各行事の反省を次年度の計画に反映させ、より一層充実した内容となるよう尽力して欲しい。

生徒育成課	【生きる力】八幡南高校生としての基本的生活習慣の確立を図る。	定例の会議や職員研修等で、生徒指導規定の周知徹底を図り、職員全体が共通認識をもって指導する。	B	B	B	【生きる力】 校則の見直しに関しては、共通した認識で指導に当たることができるように、変更内容を事前に職員会議で周知した。校則変更後の指導において、学年間の齟齬がないように引き続き調整を図る。生徒会活動に関しては、職員との連携を図りながら活発に進めることができた。今ある学校行事がより良いものになるような取組を、生徒会を中心に継続して実施していく。 【心の安全】 学校への満足度に関しては、学校生活アンケートにて97%と高く、先生方による自尊感情を高めるような声掛けや充実した学校行事によるものだと考えられる。今年度のいじめの件数は0件であるが、見逃しがないよう今後も未然予防と早期発見に努める。 【身体の安全】 交通事故に関しては、12月時点で8件と昨年度比－3件ではあるが、引き続き講話やメール等での注意喚起を行い、交通事故0件を目指す。	A	生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができていると感じた。今後もいじめ問題等の見逃しがないよう外部人材の活用や関係機関との連携を図って欲しい。
		授業を中心に、挨拶と時間厳守を奨励することで授業規律を確立し、教育活動全般で社会で望まれる立ち振る舞いができるよう指導する。	B					
		学校行事、部活動、ボランティア活動等を通して、リーダーシップ教育を充実させ、リーダを中心とした学校の活性化を図る。	B					
	【心の安全】安心できる人間関係を構築するために、自他を尊重する雰囲気の醸成を図る。	学校行事やホームルーム活動等を通して、生徒一人一人の個性やよさを発見し、自己肯定感を高める働きかけを行う。	B	B				
		学校生活アンケートやいじめアンケートを通して生徒理解を深め、生徒が感じる困難さに対しては関係職員と連携し早期に対応する。	B					
		いじめ防止マニュアルを周知徹底し、いじめを許さない雰囲気を作り、お互いの個性や多様性を認め合う風土を作り上げる。	A					
	【身体の安全】安全に学校生活を送るために、校内外での安全教育を推進する。	危機管理マニュアルの周知徹底を行い、校内外の事故の未然防止や事故後の対応等を職員間で連携して行えるようにする。	B	B				
		年1回の交通安全教室に加え、新入生に対しては学校周辺の通学路の危険な場所について指導し、2・3年生に対しては講話等で安全指導を行う。	B					
		校内安全点検を定期的に行い、危険な箇所について報告・改善することで、事故を未然に防ぐ。	B					
保健課	生徒の自主的な健康管理を促す。	保健委員会による、健康に対する意識を持たせるための取組（感染予防、熱中症、健康診断等に関する保健だよりやポスター制作、放送での呼び掛け等）を充実させる。	A	A	B	・保健委員会の活動は充実させることができた。また、健康診断についてもスムーズに実施することができた。 感染症対策については、年度の途中から新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わったものの、基本的な感染防止対策は継続することができた。今後は保健委員会を中心にしっかり自己管理ができるように働きかけを行っていきたい。 ・生徒の情報については密に連絡が行えた。しかし、情報共有のための時間を設定することが難しく、定例の研修以外では養護教諭や担任が個人的に話して情報を共有することがほとんどであった。次年度は業務を精選し、必要な情報交換を落ち着いて行うための時間を確保したい。また、心の健康に課題を持つ生徒が増えているため、カウンセリング等の情報をさらに発信していきたい。 ・整美委員長たちの働きかけは良く行われていたが、各クラスの整美委員が仕事を忘れていたり、働きかけが不十分であったりすることがあった。また、掃除区域によっては始めるのが遅れてあまり掃除をしていないという状況もあったため、学校全体の美化意識を向上させ、しっかりと掃除を行うように指導したい。	B	心の健康をはじめ、様々な課題や不安を抱く生徒もおり、高校生段階では一見するだけではそれらを把握することは困難であろう。そのため、スクールカウンセラー等との連携をより一層深めて欲しい。
		健康診断の意義や取り組みについて十分に説明し、健康に関する意識を高めさせ、スムーズに検診が行えるようにする。	A					
		基本的な生活習慣を確立させるとともに、日常的にケガや感染症を防止するための行動を進んで行うことができるようにする。	B					
	個々の生徒への理解・支援を図る。	支援を要する生徒については職員研修のみではなく、随時、職員の共通理解を図ることができるよう、きめ細かな連絡を行う。	A	B				
		スクールカウンセラー、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、担任、学年との連携を密にするための時間設定を行う。	B					
		心の健康のためのカウンセラー便り等を作り、カウンセリングを受ける生徒だけではなく、全生徒に対する情報発信を行う。	B					
	清掃活動に積極的に取り組み、校内環境美化への意識向上を目指す。	整美委員をリーダーとして、掃除時間の開始後すぐに清掃に取り掛かかり、時間一杯清掃活動に取り組むようにさせる。	B	B				
		整美委員による担当掃除区域のチェックを定期的に実施し、生徒の美化意識を向上させることで生活環境を清潔に保てるようにする。	B					
		日常の清掃活動のマニュアルを作り、清掃道具の補充等、清掃しやすい状態を整え、広範囲な掃除区域でも、毎日の清掃で校内を美しく保てるようにする。	B					
人権・同和教育推進課	生徒の人権に関する知的理解と人権感覚の向上に努める。	教育活動全体を通じて全職員で人権・同和教育を推進し、人権尊重の精神を涵養し、実践的な行動力を育成する。	B	B	B	・今年度、性的マイノリティや障がいのある人に関する人権教育講演会を実施したが、当事者や深く関わる方の生の話は生徒の心に深く刻まれるものとなった。一方で、生徒の人権意識に課題が感じられる言動も見られた。特設授業の場だけではなく、日頃からあらゆる機会を捉えて人権について話をし、自他の人権を尊重する実践的行動力を育んでいきたい。 ・12月の人権週間の取組では今年度も生徒会と連携して啓発活動を行うことができた。さらに生徒からのアイディアを取り入れながら連携した取組を拡大していきたい。 ・様々な課題を抱えて入学してくる生徒に対して、必要な支援・配慮が適切に行えるように、合格者登校日や入学式での相談コーナーの積極的な案内を行う。また、中高交流会では、中学校からの積極的な情報入手・連携を図り、支援につなげる。	A	人権・同和教育に係る取組が適切に行われていることが拝察させた。今後も特別な配慮や支援が必要な生徒に対して、緻密なサポートを講じるようにして欲しい。
		生徒の実態や時代に即した学習内容・教材を精選し、事前学習やふりかえりの時間の確保に努め、特設授業の充実を図る。	B					
		7月、12月に人権教育・啓発週間の取組を実施する。また、生徒会と連携して啓発活動を行う。	A					
	生徒一人一人の自己実現のために、確かな学力と進路を保障する。	学習面や生活面で様々な課題がある生徒の状況や生活背景を把握することで、生徒理解を深め、他の分掌と連携しながら必要な支援へと繋げる。	B	B				
		進路部や修学支援担当、関係諸機関と連携して、就労・進学保障のきめ細かな取組を行う。不適正な事例が起きた時は迅速に対応する。	A					
		人権教育や修学支援に関する情報の発信や校外研修会の案内を適宜行い、全職員が情報や資料を共有・活用できるようにする。	B					
	支援や配慮を必要とする個々の生徒への支援体制を整える。	中高交流会や入学式時の相談コーナー、生徒情報交換会など、様々な機会を通して生徒の状況把握に努め、必要な支援・配慮についての共通認識を図る。	A	B				
		特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、関係諸機関と連携しながらケース会議を開くなどして適切な支援に繋げる。	B					
		家庭や地域、校種間、関係機関と連携・協同しながら個々の生徒に応じた適切な支援や配慮を行っていく。	B					
キャリア教育課	生徒の学習意欲向上と授業改善につながるよう模擬試験を活用する。	模試ごとに分析会を行い、生徒の学習状況を把握して授業計画等の改善に生かせるようにする。	B	B	B	・模試後の分析について、教科会議の中で情報を共有し、進路実現のために「今どのような指導が必要か」を検討し、授業や課外に生かす。 ・3年生で行う進路学習に2年生も参加し、2年生と1年生が課題研究の情報を共有するなど、学年を超えて進路実現に取り組む「白梅ゼミ」を実施する。 ・ポートフォリオやルーブリックを活用し、生徒自身がPDCAサイクルを構築できるよう指導する。	A	生徒の進路希望は多岐にわたっているため、一人一人が社会に出た後に必要となるであろう問題解決能力等の育成にも尽力して欲しい。
		模試後の振り返りややり直しを確実に行うことで、基礎学力の定着を図り、進路実現につなげる。	B					
	個々の生徒の進路希望に応じた指導を実施し、多岐にわたる進路に対応する。	探究課と協力して面接・小論文・討論・口頭試問等のゼミ活動を早期に行い、入試対応力を付ける。	B	B				
		公務員採用試験や就職試験を目指す生徒に対して早期に計画的な指導を実施し、100%合格を目指す。	A					

ガイダンス課	3年間を見通した課外授業の実施や校外活動への参加を促すことにより、生徒の希望進路実現を目指す。	課外授業の内容充実のために、学年や教科と連携して生徒の実態を把握し、生徒の実態に応じた課外授業を実施する。	A	B	B	・希望制課外は、各学年とも一定数のニーズがある。内容についてより明確化し、生徒の実力養成に努め、生徒自身が学力の伸びを実感できるようにする。 ・ボランティア活動やオープンキャンパスへの参加等、生徒が主体的に選択し行動できる力を育成する。	A	ボランティア活動の推進に関しては、若いうちから様々な経験をすることで、将来社会に貢献しようとする人材となるため、ぜひ取り組んでいただきたい。
		体験活動やボランティア活動への参加により、学校での学びを実践で活用する機会を作るよう促す。	B					
	社会とのかかわりの大切さや、働くことの意義を適切に理解できるよう一人一人のキャリア発達を支援する。	進路講演会を学期ごとに実施し、学問と職業の関わりを知り、学問・職業選択の幅を広げられるようにする。	B	B				
		2年次までにオープンキャンパスに2回は参加し、複数の進路先を比較し、視野を広げるよう促すとともに、事前事後指導を丁寧に行う。	B					
探究課	3年間を見通した系統的な指導を行い、明確な進路目標のもとに主体的に行動する生徒を育成する。	1年次は、職業・学問研究、2年次は進路先研究、3年次は進路目標に向けて自走できる生徒を育成するための総合的な探究の時間を計画する。	B	B	B	・生徒の発達段階を踏まえて、総合的な探究の時間での取組を、1年生「自己探究」、2年生「社会探究」、3年生「進路探究」と明確化する。 ・様々な発表のスタイル（個人発表、ポスターセッション、グループディスカッション、小論文等）を経験させ、「思考力・判断力・表現力」を育成する。 ・外部（大学等）との連携を図り、生徒の知的好奇心を刺激する。	A	学力だけでなく人間力を高める取組を推進していると実感する。授業等を通してものの見方や考え方を身に付ける取組も進めて欲しい。
		大学や企業との連携によって探究学習を進め、生徒の興味や関心を広げられるように工夫する。	B					
	進路実現のために必要な思考力・判断力・表現力を有する生徒を育成する。	3年間を見通した系統的な計画として「小論文・面接・討論・口頭試問ゼミ」を実施し、「書く力」と「話す力」の育成を行い、生徒の表現力を高める。	B	B				
		思考力・判断力・表現力を5段階で自己評価し、1年間を通して評価が上昇し生徒自身が成長を実感できるポートフォリオシートを作成する。	B					
研修・図書課	基本研修・職員研修の充実を図る。	若年教員研修や基本研修等で得た学びやその成果を発表する機会を設定する。	C	B	B	・近年の教育改革を踏まえ、各分掌とも連携して、ICT活用等による授業改善、積極的な生徒指導、多様な進路に対応した進路指導など、本校の実態に合った職員研修を充実させる。 ・ICT推進課と連携し、ICTの効果的な活用による授業改善など、ICT活用推進の研修を充実させる。各教科から研究授業を実施し、教科を超えた授業手法の共有を図り、教員の教科指導力の向上と授業改善の取組を推進する。 ・朝活やビブリオバトルの実施、図書だよりの発行や図書委員会からの読書の意欲を高めるような情報発信を行い、読書活動の推進に向けた活動を充実させる。	A	大学入試の在り方も変化し、大学等が求める生徒の資質・能力も多様化している。また、本校生徒の進路希望自体も多様である実態を踏まえて、今後も教員のスキル向上を図る研修を継続して欲しい。
		教員が必要性を感じる共通の課題に応えるため、各分掌と連携しながら本校の実態や実情に応じた校内研修を実施する。	B					
		教育実習の充実により、将来の人材に授業力や生徒指導力、社会人としての基本事項を身に付けさせる。	B					
	生徒が授業で力がついたと実感できるよう、授業改善に努め、教科指導力の向上を図る。	授業アンケート結果のフィードバックによる授業改善を目指し、「生徒が授業で力がついたと実感できる」等の質問回答率の向上を目指す（3.5以上）。	B	B				
		授業研究会や相互授業参観を実施し、教科を越えた授業手法の共有を図り、教科指導力を向上させる。	B					
		「新たな学びプロジェクト」の一環として、一人一台端末などのICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	B					
	読書活動の推進と、図書館利用の促進を図る。	朝活やビブリオバトルを実施して、生徒の読書に向かう意欲を高める。	B	B				
		オリエンテーションや学年との連携、計画的なビブリオバトルの実施により、全校生徒が年間で3冊以上の本を読むことを目指す。	B					
		生徒による図書だよりの充実、図書活動への定期的な呼びかけを実施し、図書委員会の活動を充実させる。	B					
広報課	本校の取組について、積極的な広報活動を行うことで、八幡南高校の魅力を校内外に発信する。	教務部ICT推進課と連携し、ホームページを通して、学校行事等日々の様子や部活動の大会報告等を積極的に発信する。	B	B	B	・ホームページを利用しての発信については、もっと頻繁に行い、多くの人に定期的にみて頂けるよう工夫すべきであった。ただ、広報部のみで頻繁に記事をアップすることは難しい面もあるため、来年度に向けては、各分掌や学年から記事を提供頂ける体制づくりを整え充実した情報提供に努めたい。 ・体験入学や中学校訪問は、資料の準備等を行うことができた。その他については教務部中心に進めていただいたため、来年度は広報部としてできることを分担して担っていきたい。 ・学校要覧やパンフレットの作成については円滑に進めることができた。	B	文化祭や体育大会等の大きな行事については、事前・事後にホームページに内容を掲載するなど、より外部にPRできる方策を検討して欲しい。
		中学生体験入学を行い、中学生や保護者に本校のことを正しく伝えることを通して、選ばれる学校になるよう努める。	B					
		中学校訪問の計画立案や準備、中学校説明会の連絡調整等、教務部と連携しながら円滑に行う。	B					
		学校要覧やパンフレットの作成を、他分掌と協力し円滑に行うことで広報活動に役立てる。	A					
1学年	八幡南高校生としての自覚と誇りを持った生徒を育成する。	時間やルールを守り、挨拶やマナーなど他者への配慮を大切にする指導を行う。	B	B	B	・家庭学習時間が全体的に少なすぎるので、勉強時間の確保を習慣化させる必要がある。 ・学習面では国英数を中心にスタディサプリで課題を出し、夏期補習でもスタ活を入れて活用の素地ができたが、プラスαで活用する生徒が少ない。生徒の進路希望に応じた活用方法を検討する必要がある。 ・2年生では学校行事を運営していく立場となることから、あらゆる場面でのリーダーシップやフォロワーシップを育成していく必要がある。なるべく多くの生徒が役割を担い経験させたい。 ・就職や大学進学を見据え、必要なボランティアやインターンシップ、資格取得を積極的にチャレンジさせる。	A	学年の取組については、十分な成果をあげていると感じる。今後も生徒一人一人の学力をはじめ、自分自身に対する自信を深めることができる取組を行って欲しい。
		部活動や生徒会活動への参加を促し、部活動加入率80%を目指す。	B					
		クラス役員や実行委員などの役割を通して学校の一員としての自覚を持たせるよう指導する。学年代表、クラス代表を中心に、主体的に行動する学年集団を育成する。	B					
	正しい学習方法と学習習慣を身に付ける。	授業を中心とした学習体制を整え、予習・授業・復習・課題提出の学習サイクルを確立するよう指導する。	B	B				
		定期考査ごとに学習計画表を活用し、2週間前から計画的に学習に取り組み、教科ごとに振り返りを行わせる。	A					
		スタディサプリを活用させ、自らに合った内容の学習を、主体的に行う習慣を定着させる。	B					
	自身の適性を知り、進路目標を設定し、目標に向けてスタートを切る。	自分自身の適性や能力を知り、高い志を掲げ、適切な文理選択、進路目標の設定を行えるよう指導する。	B	B				
		個人面談や大学研究等を通して進路意識の高揚を図る。	B					
		ボランティア活動への参加や各種検定試験への受験を奨励し、自らの能力を主体的に高めていく生徒を育成する。	C					

2学年	中核学年として、基本的な生活習慣を確立することで後輩に範を示し、責任ある行動をとれるようにする。また、学校行事、学校生活でリーダーシップ、フォロワーシップを発揮し、自信をもって学校活性化に資する行動ができるようにする。	HRや面談等を通して、きめ細かい指導を行う。また即時指導を原則として迅速に指導に当たる。	B	A	B	【規範意識】人権意識や規範意識に問題があったため、教員が全教育活動でその観点をもって指導を行う。 【リーダー教育】定期的なリーダー会議を十分に行い、リーダーシップの育成を行うことができた。次年度引き続きリーダシップの育成はもちろんだが、小さなリーダーを増やすことが課題である。 【学習】学習習慣についてチェック機能が果たされなかったこともあり、学習習慣についての指導が不十分であった。生徒の授業アンケートによる前向きな感想から、端末を活用した授業は次年度も継続したい。 【特進クラス】教科担当者会議を開催できなかった。教科ごとの話し合いはあったが、担任を交えた会議まで行うことができなかった。そのため、次年度は方策を変え、模試をベースに担任が各教科からアドバイスをいただく形での実施を計画したい。 【研修旅行】研修で生徒が得られたものは大きかったと思われる。ただし、行程にゆとりがなかったため、次年度は訪問する企業の数を調整する必要があると思われる。 【探究】SDGsの探究活動は半数が何らかのアクションを起こすことができた。それによる課題を志望動機に結びつける指導も行いやすかった。一方で、進路別集会については総合的な探究の時間の計画に入れるべきであった。 【次年度の課題】 ①【進路意識】…第一希望進路実現のための分析と対策・進路別集会 ②【入試指導】…受験勉強の仕方をきめ細かく指示 ③【学習意欲】…学習の意義 ④【人権教育】…教職員同士の情報交換 ⑤【リーダー教育】…リーダー会議の拡大	A	リーダーの資質の一つに、どれだけ周りを巻き込むことができるかが挙げられる。このことを意識したリーダー教育を行って欲しい。また、全ての生徒に対して自分を愛することや自分をほめることの大切さも教えていってもらいたい。
		学年が抱える課題解決のためにリーダー集会を1月ごとに行う。また学校行事の運営を生徒が自分たちで行ったと実感できるよう、きめ細かい指導を教員団で行っていく。行事の振り返りの中では、リーダーの気持ちについて必ず触れ、フォロワーシップについて評価するとともに、理想の在り方を伝えていく。	A					
		クラス役員の仕事を修学旅行とリンクさせ、役割を果たすよう指導を行う。また、クラスの係活動の内容を充実させ、クラス内での自己の役割を果たすことで自己有用観を高めていく。	A					
	学習習慣を定着させるとともに、既習内容の定着および学びの修正を図ることによって、学力を向上させる。	担副による生徒面談を通して、学習習慣が身に付いているか、継続できているかのチェックを定期的に行い、学び方の修正についての指導を行う。	B	B				
		スタディサプリで課題の内容を精選し、提出の仕方を工夫することで、既習内容の定着を図る。また、Formsで小テストを行うなど一人一台端末の環境整備状況を最大限活用する。	B					
		特進クラスの教科担当者会議を考査ごとに行い、その振り返りを共有し、授業改善を図る。	C					
	進路目標を明確にするために、体験的な活動に積極的に参加させ、タイミングの良い進路行事を実施することで、進路意識が継続的に高まる指導を行う。	国内研修、勉強合宿、修学旅行を通して、勤労観・職業観の育成を図り、社会における自らの役割を発見するきっかけ作りを行う。	B	B				
		進路別集会を学期に2回実施することで、今何をしなければならないのかについて意識させるとともに、高い目標を持ちつづけることができるよう指導を行う。	C					
		SDGs探究活動を通して、自らの社会と関わり、課題を解決しようとする主体性を育む。	B					
3学年	生徒の第一希望進路100%の実現を目指す。	高い進路希望を持たせ、国公立大学55名以上、公務員7名以上の合格を目指す。	B	B	B	・小論文や志望理由書の書き方など、進路実現に向けた取組を早い段階から行ってきたが、明確な進路目標がない状態で取り組んだことはあまり定着していないように感じた。3年次に再度、そのような取り組みを行うことの重要性を感じた。また、特に高い進路希望を持った生徒に対して、個別に進路指導を行ったことの成果は大きかった。 ・学年全体の雰囲気が落ち着いており、それは学習態度にも表れていた。自ら先頭に立ちリーダーシップを発揮することができる生徒は少なかったが、学校行事を通してそのような生徒を育成できたことはよかった。また、リーダーを支えていこうとするフォロアーシップを持った生徒も育成できた。	A	例年、公務員希望者が一定数おり、その進路実現を図っていくことも本校の特色の一つである。今後も多様な進路希望に応じた全体及び個別の指導を充実させて欲しい。
		総合型選抜入試、学校推薦型入試に向け、小論文及び面接指導体制の充実を図る。	A					
		面談や総合的な探究の時間等を活用し入試制度について早期に理解させるとともに、生徒一人一人の受験プランを明確にし、入試に対応できる力を養う。	B					
	授業を大切にし、生徒が最後まで学び続け、力がついたと実感できる授業づくりを行う。	学習の習熟度に応じた課外や個別指導を適宜行い、学力の伸長に努める。	A	B				
		それぞれの進路に応じて計画的かつ主体的に学ぶことができるよう課題や小テストを調整する。	B					
		進路決定後も自分自身を高めるために学び続けることの重要性を理解させ、クラス全体で最後まで学習に取り組む雰囲気作りを行う。	B					
	最上級生としての自覚を持ち、主体的に考え行動できる生徒を育成する。	生徒が主体となり、学校行事の成功に向けて努力することを通して、生徒一人一人がリーダー学年であることを自覚させる。	A	B				
		学校行事を通してたくましい人間力やコミュニケーション力の育成を図り、生徒に自信を持たせる。	B					
		最上級生として、周囲の状況に応じた言動を行うことができるよう指導する。	B					
事務部	本校の学校運営方針に沿った教育環境の整備を図る。	生徒への教育効果を高めるため教員と情報を共有し、校内の教育環境及び教育設備の充実に努める。	B	B	B	・安心安全な教育環境の整備充実に努める。 ・適正かつ効果的な会計事務処理に努めていく必要がある。	A	事務部の尽力なくして教育活動の充実は図れない。今後も必要な整備に努めていただきたい。
	効率的かつ適正な業務運営を行う。	予算の効率的な執行を図るとともに、必要な予算要求を行う。	B	B				
		職員間の相互チェックを徹底し、適正な会計事務処理の執行に努める。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・学校の教育活動全体の根底に“生徒ファースト”の理念を掲げながら、生徒の人間力向上を図る取組を邁進していく。

・生徒の多様化する教育的ニーズに応じるとともに、生徒会活動の充実等を通じて生徒の自主性・自発性の伸長を図る。

・近隣の幼稚園や小学校との交流を推進するとともに、地域や中学校等への広報活動及びホームページの充実に努める。

評価項目以外のものに関する意見

生徒の健全育成には家庭環境の影響も大きい。家庭教育を支援する取組をPTAでも行っていきたい。